

ことを含めて、それ以外の難病治療に漢方が意外な力を発揮していることを私の経験を踏まえてお話してみましよう。そして、漢方の医療が実はほんとうに身近な病気からとてつもなく難しい治療を必要とする難病にまで幅広く皆さんに役立てる、極めて実践的な医療であることを事例を示してお話してみます。

幸福の青い鳥は、まさにあなたのほんの身近な所にいるということを知っていただければこれ以上の喜びはありません。

2 症例に見る漢方薬理

適正な使用と服薬指導のために

田代 眞一

昭和薬科大学・病態科学教室

漢方薬の適正使用の基本が証の判断にあることはいうまでもない。ただ、臨床の場では、証が合っていると思うのにうまく効かないとか、嫌な作用が出てしまうといったことも少なからずある。それを、証の誤りと片付けてしまうのは簡単。でも、ちょっとした薬理の知識が、適正使用に役立つことがある。以下の症例について、一緒に考えてみたい。

〔症例1〕芍薬甘草湯が無効の月経痛：32歳の看護婦。実証で、腹壁の緊張を認めた。いつも激しい月経痛を訴え、ソセゴンを使うこともある。ただ、麻薬様の薬を使いたくないと、漢方治療を希望してきた。月経2日目に来たので、芍薬甘草湯1日6包を投与したが、効果は得られなかった。どう対処するか。根拠は何か。

〔症例2〕甘草製剤を中止したのに偽アルドステロン症が改善しなかった例：67歳の男性。肝機能障害で、6人部屋に入院。甘草含有処方としては、強力ネオミノファーゲンC2アンプルと小柴胡湯3包を投与していた。投与開始後約45日で低カリウム、血圧上昇などが出現し、上記処方を中止したが、一向に偽アルドステロン症の改善をみない。

〔症例3〕当帰芍薬散による下痢・腹痛：17歳の女子高校生。貧血を主訴として来院。当帰芍薬

散1日3包を投与したところ、夕刻から下痢と腹痛を訴え、夜間に再度来院した。

〔症例4〕 α グリコシダーゼ阻害剤による腹部膨満と大建中湯：糖尿病患者の男性(57歳)にベイスンを投与したところ、腹満や放屁が出現したので、大建中湯1日6包を投与したが、翌日から却って腹満や腹痛が増強し、苦しんでいる。

〔症例5〕小青龍湯による動悸・息切れ：手術室勤務の看護婦(27歳)が、アレルギー性鼻炎のために、季節になると清潔勤務が困難だという。そこで、小青龍湯1日3包を投与したところ、動悸や息切れを訴えた。

〔症例6〕牛車腎気丸による嚥下困難等：11年の慢性関節リウマチの既往を持つ糖尿病の女性(67歳)に牛車腎気丸1日3包を投与していたところ、エキス顆粒にむせやすくなったという。嚥下困難以外に、ろれつが回らないという症状も認められた。

〔症例7〕柴胡桂枝湯による発疹と痒み：米国から初来日した白人女性(63歳)が、2日目の朝、風邪気味だと訴えたため、宿の女将が常用している柴胡桂枝湯を1包与えたところ、10数分して全身に発疹とかゆみを生じた。漢方薬服用歴は全くないという。